

人口減少、少子高齢化が進んでいるこの町に
人の流れをつくる

■移住（I・J・Uターン）支援

重要・キーワードに○	
Uターン（特に若者、子育て世代）への支援強化	
○移住政策（補助制度など）が移住者にとって魅力的であるかどうか←他の自治体との差別化など。	● ●
○一旦与謝野町から転出した人（特に若者や子育て世帯）が戻ってくる支援も必要	● ● ● ● ●
移住者等の受入体制や支援制度	
○NPOなどの事業主体の育成も	
○いずれの施策も重要であり、引き続き展開していくべき内容である	
○お年寄りレンタル（移住者のための）	
○移住施策のターゲット層を絞るなど	●
○移住者の負担があまりないようにすること（地域の人との関係づくりも含め）	
○社会的弱者（シングルマザー、ひきこもりなど）の住宅、就労支援	● ● ●
○受け入れる側である地域や地域の人に移住者に慣れること	●
○大学生等の農業体験（裏テーマとして、受入側（地域）が外部の人に慣れる体験）	●

■体験、交流型プログラム

与謝野町での暮らし（人生）を描けるか	
○Uberアプリを使った交通の取り組み。例：京丹後市	● ●
○お祭りやイベント体験（担い手として） → きっかけ	
○お試し事業	● ●
○まず、空き家（隣組件数も減っている）の現状を地域の人たちも知ること	● ● ●
○週末農業（裏テーマとして、荒廃農地対策）	
○農村地域（地方）の暮らしのよさを活かしつつ、ある程度の便利さも必要	
人で人を呼ぶ（つながる）	
○外国人の呼び込み（↑SNSとも関連）	
○情報発信、SNS（若者、外国人）など	● ● ●
○人で人を呼ぶ(例：名物おじさん、名物おばさん)	● ●
○第2のふるさとづくり	● ●
○地域の祭り、イベント、ボランティア	●
○与謝野町にはないもの（技、知恵など）を持ち合わせている人を呼び込む 例：漆塗り職人	●

■空き家/空き地の有効活用

さまざまな拠点（くらし、しごと、学び、遊びなど）	
○“与謝野町に来たら何かある”といったものをつくる	● ●
○1階を保育所、カフェにしたマンションでは、子育て世帯の入居が増えた例	
○サテライトオフィスや二地域居住の推進	
○まちなか花の彩り（季節に応じた、四季折々の風景）	
○雲海や祭りは地域資源	
○学生によるお試し住宅DIY	●
○空き家を託児所に→子育てしやすい環境をアピール	
○研修や合宿の地に	●
○公民館を活用した（公民館開放）子育て支援（キッズステーション）	● ●
○森の体験、山奥を逆手にとって人を呼び込む	●
○廃校利用の可能性は？←難しい	
○遊び（山・川・海・里）の宿	● ● ●

他府県の方はホームページで比較される

戻ってきたい若者に十分な支援をする

ターゲットとしてまずUターンを狙うのは良い

自分たちが自分の地域のことから「知る」=大事

地域行事情報

空き家に泊まり週末農業をしてみよう

公民館有効活用
わくわくカフェ

こどもの時から楽しい体験を十分にさせる

まだ不足・もっと補足

移住支援を整備する

移住者アドバイザー

移住後のフォロー、定住支援

田園回帰
地域学
若い世代へ

都会の企業との連携

交通の課題解決（買い物、通院）=安心して暮らせるポイント

いなか体験（学生）を実施（お試し事業、週末農業、地域祭、イベント、ボランティア、森の体験、山・川・海・里の遊び

アイデアマン（人材）の誘致

空き家（空き住宅）を芸術・ものづくりを志す人たちに貸す
半芸半X（農業、福祉、建設業等で働く）

一目でわかる空き家情報（町民も紹介しやすい、来る人も探しやすい）

学生宿泊、地元の情報報告

人口減少、少子高齢化が進んでいるこの町の
持続可能な地域づくり

■暮らしやすい地域づくり

	重要・キーワードに○
頼れる地域、助け合える環境	
○近居→親世帯と子世帯の助け合い（子育て、仕事など）	
○地域仲良く、隣近所とお付き合い（顔が見える） →頼れる近所（コミュニケーション）	●
○頼れる地域、助け合える地域（環境）づくり	
若い世代も参画できる仕組み	
○子どもの頃からの手伝い→家業後継、農地を守る、地域・近所との付き合い	●
○若い人（子育て世代、働き世代など）たちでもできる仕組み	
地域活動しやすいエリア等の再編	
○できることからやる。できる人がやる。とりあえず始める。	●
○気づいていない人もいるが、それぞれできることがある。	
○元気な高齢者の活躍（何を楽しみに生きるか）	●
○組（再）加入につながる	
○隣組の再編（エリア、構成世帯）→地域活動しやすく、組外の人との関係性の維持	

■交わりつながる地域づくり

交流/連携（事業所や福祉施設等、他の地域）	
○行政から利用できる制度等の紹介	
○出会いの場づくり（サークル的な活動、農業体験、イベント）	●
○多業（マルチワーク）化	● ●
○地域での活動（動き）をその姿を地域内外に「みえる」こと	● ●
○地域と地域住民の意識（何とかしなければという意識）	● ● ● ● ●
○地域連携（他の地域とのつながりも重要）	●
○福祉施設も地域資源	

まだ不足・もっと補足

ふるさと教育の実践

地域づくり＝郷土愛、意識、教育で特色を出す

共助

元気な高齢者の知恵・技術を伝授してもらう

危機感がないとダメ＋動く人

独身・既婚問わずすべての方が出会える場づくり

地域経済の循環

大企業でもダブルワーク（週末○○）

地域活動が外に見えない

織りなす人が活躍できるように ワークシート②

①身近にいる 織りなす人（地域人財＝キラリと光る人） は誰（どんな人）ですか？

若い世代、女性、つながりやすい人、ネットワークをつくる人、子どものために関わっている人、国際感覚のある人、前向きにチャレンジする人（後ろは向かない、建設的）、新たな活動をする人・グループ、知恵を持った高齢者、ヨソモノ（地域おこし協力隊）、目標を持って始める人

②身近にある様々な活動や取組（自分が関わっていること、地域やまちのこと）をやってみて（見聞きて）感じているハードル（壁）はありますか？

ハードルにな（って）い るケースや事例

例：活動がしづらい、取組が広がらない、等

- 地域の理解が得られにくい（理解されるまでに時間がかかる）
- 人財の高齢化
- 責任の所在の追求
- マンネリ化
- 資金
- 意見が出しにくい（全体の場）
- 新たな行動を起こす人への理解度が低い
- 情報量の不足
- 若者と高齢者とのコミュニケーション（若い世代を引き込む）
- 地域性（しがらみ）
- 他人事
- 独自の活動展開が難しい
- 参加者含めメンバーの固定化
- 心のゆとり（暮らしのゆとり）がないのか？！



③織りなす人のイキイキした活躍（チャレンジ）で、ワクワクするような活動が広がっていく（＝まち（地域）の魅力、元気を引き出す）にはどうしたらいいですか？

必要なもの

例：今、（人・地域などに）足りないもの

- お手伝いできる人
- 様々な活動や団体をつなげる人
- 寛容さ
- 応援する人
- やろうとする人に対する理解
- アイデア
- 頑張る人を応援する施策
- 情報発信力、知ってもらふ、魅力発信
- パソコンが使えること
- 外からのアイデア
- 人が集まりやすいコト・モノ（女性や無関心層）
- 助け合い等の経験
- サポーターをつくること

後押しするもの

例：活動しやすくなるもの、取組が広がるもの

- いろいろな人と一緒にする
- 人と人のつながり
- 多様性を認め合う
- 共感
- 地域の応援（区、行政サポート）
- 町出身でヨソで活躍している人
- バックアップする体制づくり
- 無利子貸付、補助金活用
- 情報